

様式 1

東北大学大学院情報科学研究科

(1) シンポジウム開催支援経費実績報告書	
タイトル	アルゴリズム論的学習理論に関する国際会議(ALT), および発見科学に関する国際会議(DS) 2007
(2) 主催者	篠原 歩, 瀧本 英二, 石野 明
期 日	2007年10月1日～10月4日
会 場	仙台国際センター
出席者数 (講師・パネリスト等を除く)	133 名
講師・パネリスト 等の氏名・勤務先 等	<u>招待講演者</u> Avrim Blum (カーネギーメロン大学) Alexander J. Smola (オーストラリア国立情報通信技術研究所) 喜連川 優 (東京大学) Thomas G. Dietterich (オレゴン州立大学) Jurgen Schmidhuber (スイス人工知能研究所) <u>チュートリアル講演</u> 田中 和之 (東北大学), Marcus Hutter (オーストラリア国立大学)
(3) 目 的	発見科学に関する国際会議(DS)および、アルゴリズム論的学習理論に関する国際会議(ALT)を同時に開催することで、両者の連携と発展を意図するツィンカンファレンス。アルゴリズム論的学習理論は、学習機構のアルゴリズム論的構成とそのデータ処理に関する理論的研究を行うものであり、一方、発見科学は、膨大なデータ群の中から、有益な情報や知識の検出・発見を行うための実践的手法の確立を目指している。
(4) 内 容	初日は2件のチュートリアル講演を行い、2～4日目に、招待講演5件と、査読によって選抜された一般講演(ALTで25件、DSで27件)を行った。 参加者は国内から90名、海外から50名の計140名。
(5) 情報科学研究科 にとっての意 義・貢献度	この会議には、機械学習や知識発見、データマイニング等に関する理論と応用の研究者や学生が参加して研究発表を行うものであり、仙台での開催はALT97以来、2回目である。当研究科の構成員が実行委員として運営を行い、またチュートリアル講演や一般講演も行うことにより、参加者に研究科のアクティビティを強くアピールできた。また、研究科の所属学生にもチュートリアル講演や招待講演・一般講演への出席を呼びかけたので、参加者にとっては同分野の最先端の研究内容を知るとてもよい機会となった。

注 (1) 「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。